5　京都土佐塾卒寮生の思い出

『京都土佐塾の思い出』

昭和30年度卒塾　杉本　泰男

はじめに

私は、京都大学２回生の昭和28年春から、31年３月の卒業まで３年間、土佐塾にお世話になりました。１回生は、宇治分校で、近くの学生寮「北山荘」に下宿していました。親が苦労して県外へ勉学に送り出した庶民の私達には、下宿代の安い土佐塾は、誠に有難い処でした。しかも土佐弁丸出しの共同生活ですから自主性を保つのは大変でしたが、私は塾の所為にするつもりはありません。主に麻雀と映画と雑学のその日暮らしと言えるでしょう。それは６ ～ 70年たった今でも、あまり変わりはないようです。

私は、京阪電鉄に入社して、好みの京阪バスに出向し、転籍して乗り合いバス事業を一生の仕事と趣味にしました。

さて、昭和31年４月から３年間在塾していた小池嗣男さんの塾生活の一端を紹介します。朝夕の食事付きで約4000円／月の寮費は助かりました。塾生は約20人で、兄弟のように寄り添って楽しく過ごしました。全個室でしたが、プライバシーは無く、突然の出入り自由、コンパは楽しみです。週末には、新京極あたりの映画館（そう満員の京極東宝とか）で洋画の２本立て３本立てを楽しみ、学生相手の飲み屋で痛飲して、帰りは歌いながら塾まで徒歩で帰ったものです。いや愉快です。

半面、よく勉強する人は、途中退寮していました。それぞれの青春があり、人生があります。塾母の西口信子さんにご苦労をかけたと思います。ごめんなさいで終わり。

塾生の特筆すべき楽しみは、毎春、高知から進学して来た女子大生とのピクニックです。それを手配してくれた先輩に感謝です。土佐塾の大きな門柱前で集合記念写真を撮りました。遠い昔の写真ですから、大分ぼやけていますが、その雰囲気は伝わります。掲載した他の写真もそんなものです。ご理解ください。フランスの作家ロマン・ロランの研究家で二代目塾頭だった宮本正清先生も同行してくださいました。別に、京都市バス３号系統の終点北白川仕伏町にある光森弥馬治さん宅へも各世代遊びによく行った様です。市バス４停留所分の距離ですから、塾生は往復歩きました。３号系統は、四条河原町・新京極へ映画を見に行くときに利用したものです。その代わり、外食は12円の桜食堂の素うどんで辛抱しました。

でも、時々は連れ立って、里の前のホルモンを食べに行きました。七輪で焼いてね。何かはよう聞きませんでしたが、おいしかったです。

塾生のそれぞれの思い出は、昭和45年以降の鉄筋コンクリート造りの塾舎でも、同

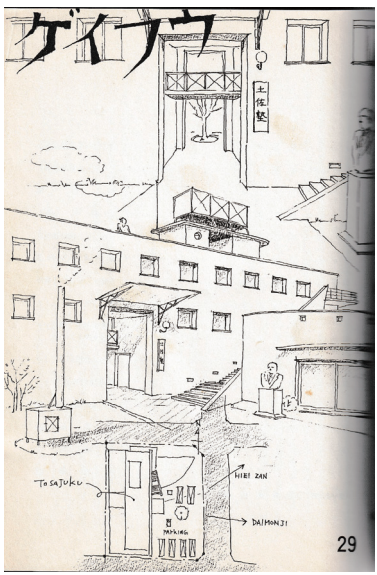
郷の学生同士の同宿ですから、同じ様なことや、西口さんから今本さんへ寮監さんが変わったから、違ったとかあるでしょう。土佐塾は今やありませんが、若き日の思い出を大切にしてください。

私は、平成24年６月から、高知サンライズホテル会長古谷俊夫さん（昭和27年度卒塾）のあとを受けて、本年６月まで土佐育英協会の理事をさせていただきました。退任した今、昭和初期からの土佐塾を振り返り、育英協会誌「あけぼ乃」に書き残しておくことにしました。協会も快く認めてくれました。多分に自分勝手なまとめかとも思いますが、お世話になった方々に深く感謝申し上げます。共に過ごした先輩・後輩との思い出を大切にします。

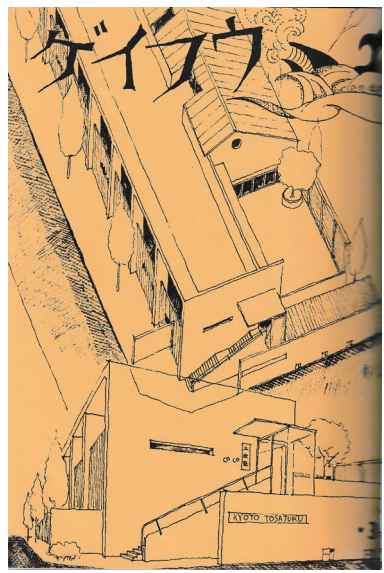
本文につきましては、育英協会、塾学生自治会、多くの塾OBの方々有難うございました。

本文の進め方として､昭和初期から平成までの主な土佐塾史を一表にまとめました。そして印象に残った主だった各論、写真を列挙します。

良くも悪くも、読後の感想をお寄せいただけたら幸いです。



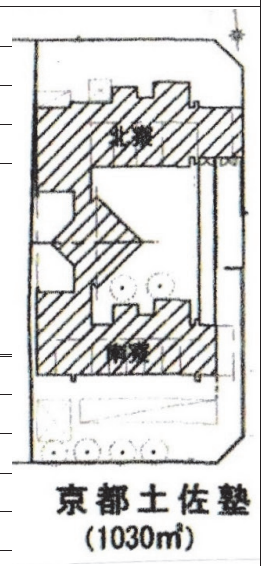
鯨風29表紙（昭和62年11月）



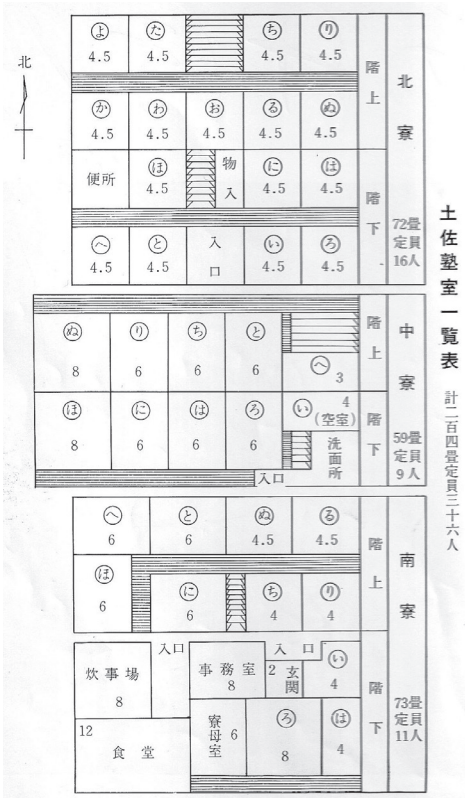
鯨風34表紙（平成４年12月）

土佐塾史

昭和 3 年初夏 (1928 年)	滝本實春・宮地正一・植田謙吉・和田収氏の 4 名の先輩方（京都大）が土佐出身大学生の寄宿寮創設を決意
昭和 4 年 9 月	7 名の京大生、元製紙工場の女子寮の一角を借り合宿生活を開始 「土佐塾」の門札を掲げる。(場所：田中高原町)
	この間、下賀茂の泉川町―百万遍と移転
昭和 8 年 9 月 （1933 年）	郷土出身の諸先輩の浄財を仰ぎ、現在の敷地に和田泰造病院長寄贈の木造 2 階建て 2 棟を建築個室 20 室（田中樋ノ口町）
昭 29 年 2 月	財団法人高知協会、京都市に設立。塾生の自主運営から、財団法人高知協会に移管
昭和 30 年	西口信子さん、土佐塾塾母となる
昭和 33 年 3 月	社団法人土佐協会(東京)・財団法人高知協会(京都)財団法人土佐奨学会の 3 団体が合併し、財団法人土佐育英協会を設立 もう 1 棟木造増築(当時の塾生定数 35 名)
昭和 45 年 8 月 （1970 年）	鉄筋コンクリート造り 3 階建てと 2 階建て（4 帖の個室 41 部屋）新築(建築費 5000 万円)
昭和 53 年 3 月	協会設立 20 周年記念式典挙行
昭和 59 年	塾舎外壁塗装等の改修工事　改修費（500 万円）
平成 3 年 6 月	土佐塾高知 OB 会発足
平成 3 年 7 月	土佐塾京都 OB 会発足
平成 5 年 7 月	土佐塾物故者慰霊祭
平成 6 年 3 月	南寮前自転車車庫完成
平成 8 年 3 月	西口信子さん寮監退任 今本満喜枝さん寮監就任 給水管改修工事 床張替え工事 通路屋根補修工事
平成 8 年 11 月	高知県橋本知事(育英協会理事長)来塾
平成 12 年	土佐塾検討委員会開設
平成 18 年 10 月	平成 22 年 3 月末土佐塾廃寮決定(理事会)
平成 22 年 3 月末	土佐塾廃寮（2010 年）
平成 22 年 4 月 3 日	土佐塾お別れ会（2010 年）
平成 23 年 3 月 11 日	東北大震災により京大留学生宿舎案消滅
平成 24 年 12 月	土佐塾用地売却
平成 25 年 3 月	育英協会理事長・塾 OB 会長より OB へ塾史終了の挨拶文発送



土佐塾木造舎室一覧表（昭和41年発行の「あけぼ乃」第８号より）



昭和８年に木造２棟の寄贈を受ける本図の南寮と中寮棟（当時は北寮と呼ぶ）の２棟で、定員は11+９の20人その後、昭和34年に本図の北寮（定員16人）が建て増しされた

昭和45年に土佐育英協会により鉄筋コンクリート造りの２階・３階棟（定員41人）に刷新された

OB野村洋一さん（昭和41年度卒塾）提供

昭和30年頃の昼下がり、旧土佐塾の中庭にて

奥に塾門柱・右側は南寮の木造２階建ての前で中庭の卓球台の上で布団干し、その上に一升びんを持ち着物姿で座る杉本　懐かしきひと時

土佐塾南寮の遠景、京大農学部北門辺りから写す

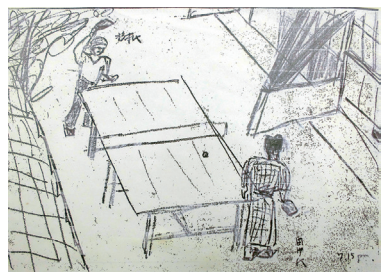
昭和８年当時は、畑ばかりでよく見える

戦没した塾OB柳瀬千尋さん（アンパンマンのやなせたかしさんの弟）を本にしたノンフィクション作家門田隆将氏が、当時の塾OBの家族よりいただく

土佐塾の暮らし

先ず、私が在塾した昭和28年頃からお話を始めます。土佐塾の場所は左京区の京都大学吉田キャンパスの北部構内の農学部北門を出て、北へ歩いて５分程の角地にあります。南東北面が道路の矩形の300坪強です。木造二階建ての２棟で塾生の居間20室で、北寮階段上の部屋は、３帖足らずで、特に狭かったのですが、他は６帖前後の広さがありました。毎年新入生が来ると部屋替えがありますが、北面が窓の部屋は、冬は寒いので、皆敬遠していましたが、仕方ないですね。他は南寮に台所と食堂と集会室がありました。朝・晩はおばさんが食事を作ってくれていました。出来るのが待ち遠しかったです。大学へ行った昼間は、大学西部構内の食堂でした。塾生活は楽しくて、冬は台所横で炭火の七輪でするめを焼いての先輩達との語らいが楽しみでした。塾中庭では卓球をしたりしていました。私の１年下に工芸繊維大学へ行っている田中淑さんが入塾してきました。遠く昭和８年度卒塾で京都府立医大生の方が居られたようですが、他大学の入塾生は、彼が初めてです。すぐ仲良くなったのですが、それからだんだんとぼちぼちと他大学生も入塾してくれるようになりました。立命館の衣笠学舎まで自転車通学しているなんて聞くと嬉しくなりますね。

昭和29年頃南寮縁側で塾生７人
左から田中淑、山下勇、杉本泰男、秋田浩、高原弘和、川崎宣、田所欣治



昭和29年頃中庭でピンポンを楽しむ着流しの田中淑と杉本
１年先輩の和田雅夫さんのスケッチ

昭和28年から９年頃、ピクニックに塾門前集合
前列中央宮本正清塾頭

私は、仕事が京阪沿線でしたから、卒塾後も土佐塾へは時々行っていました。また京都高知県人会の役をしていましたから、11月15日の墓前祭には、寮監も塾生もよく来てくれました。平成11年10月31日の京都まつりの御池通のパレードには、ふるさと高知から呼んだ“よさこい鳴子おどり”のチームの先頭を切ったプラカード持ちを塾生の土本恵介君に頼みました。土佐のカッパしばてんよさこいチームで沿道の大拍手を受けました。

土佐塾の毎年の会報“鯨風”の印刷は、西村信天堂に最後までお願いしていましたが、西村信助社長は、塾新入生歓迎コンパにはよく来てくださり、土佐弁で新入生と話をするものですから、新入生のホームシックも一遍に飛んでいってしまったようでした。

西村社長は、倉橋常茂さんの推薦を受けて、育英協会の常務理事をしてくれました。平成13年８月に77歳で亡くなられましたが、その葬儀の葬儀委員長を私（県人会会長と塾京都OB会会長ということで）が勤めさせていただきました。西村社長の跡は、長男の紀男さんが引き継ぎ鯨風や京都高知県人会会報などの印刷を継続してくれています。土佐塾からは、西口信子塾母の長女川崎弘子さん（ある時期住み込みで塾母の手伝いをしてくれていました）が参列されました。

昭和29年頃、塾北寮前に８人の塾生
半分名前忘れた

倉橋常茂寮監先生のこと　1892 ～ 1986（明治25年～昭和61年）

京都土佐塾寮監、京都高知県人会初代副会長、居合道範士八段京都豊剣会初代会長をしていた倉橋さんは、高知県香美郡土佐山田町に生まれ、京都府警察官となり、昭和初期、警部補であった倉橋さんは、管内逍遥中の学生一群と出会い、それが大学生の滝本實春さん達であり、その縁で合宿希望の借家保証をしたことから、土佐塾との付き合いが始まったとの倉橋さんの文章を長野道夫さん（昭和43年の卒塾）からいただきました。ご縁がずうっと続いていたのですね。

昭和19年八坂消防署長を最後に退職しました。昭和22年11月15日川本直水会長創設の県人会副会長となり、退職後何かと世話をしてきた土佐塾を11月15日の龍馬・中岡

慎太郎兩雄の墓前祭・当夜の県人会総会懇親会に招待することとなりました。それは平成10年から22年まで県人会会長をしていた私の代まで途切れながらも続けてきました。木屋町五条上るの鮒鶴か鶴清・レストラン嵐山から京都タワーホテルと移り変わりましたが、塾母寮監の西口信子さん、寮監の今本満喜枝さんにも来ていただきました。私もそうでしたが、塾生は、よく飲み楽しんでいました。

昭和54年度卒塾の田中宏昭さんによりますと、中秋の名月の頃は、鉄筋建ての南寮と北寮の屋上で合同観月会を開いた時、私たち塾生と倉橋さんが交流した思い出を語ってくれました。また、塾の屋上では、８月の大文字五山の送り火の観覧をご近所の皆さんに開放したとのこと喜んでいただけたでしょう。皆さん良いことをしてくれましたね。

そして土佐育英協会京都支部扱いの維持会員拡大に奔走されました。昭和30年代、京都市内で仕事をしていた私は、毎年倉橋さんの訪問を受けて、県人会費と普通維持会費を取り上げられていました。私が一番長い会費の歴史を持っているのではないでしょうか。

昭和54年（1979年）に高知県庁の評価を受け、県人会の有志の尽力により、塾中庭に倉橋寮監の胸像が設置されました。平成22年廃寮を迎えた当時それをどうするのか困惑していました。それを私の後の県人会長になった吉本幸夫さん（エフビットコミュニケーションズ㈱社長）が自社の中庭に移設を快く受けてくれ安住の地を得ました。豊剣会三代目会長の木村幸比古さん（霊山歴史館副館長）が撰文を書かれた胸像は、京都駅八条口の烏丸通り150m南のエフビットビルの中庭にあります。後日京都を訪れた尾崎正直高知県知事は吉本新会長と私達と共に胸像の前で記念写真を撮りました。どうぞ機会があれば見に行ってください。

📷 倉橋寮監の胸像、塾中庭にて

塾母・寮監西口信子さんのこと

私が入塾した昭和28～29年当時は、学生自治の塾生の食事は、ご近所の多田さんというおばさんが来て作ってもらっていました。高齢なので、若い方を採用することになり、昭和30年に高知商工会議所で、面接試験となりましたが、西口さんが塾生の食事の世話をすることは、私の天職だと大変な熱意で、それに押されてしまって、お願いすることになりました。当時27歳位と思いますが、以来70歳位になる平成８年まで塾母と後年は、寮監も兼務してくれて、正に有言実行でした。当初木造２階建ても昭和33年にもう一棟北寮の北側に増築され、定員が20人から36人となり、更に昭和45年には、お蔭様で全面建て替えて、鉄筋２・３階建ての定員41名となりましたので、西口さんの長女の川崎弘子さんも住み込みで炊事をしてくれました。西口さんが再婚されたご主人の勇さんも買い出しも手伝ってくれたそうです。西口さんは、土佐塾に就職する前の昭和30年宇高連絡船紫雲丸衝突事故の際、乗り合わせていて、大学生に助けられて、九死に一生を得たので、その分学生のために働きたいという人生でした。私は、11月15日の県人会懇親会（レストラン嵐山）で西口さんとご主人、学生との写真を撮ったり、塾の追い出しと歓迎コンパに呼ばれたりしました。塾を退職された際には、祇園の弥栄会館の都をどりを一緒に見ました。今は尼崎にお住まいかと思いますが、昨年の育英協会誌「あけぼ乃」は届いているそうですが、お元気でお過ごしのことを念じております。

昭和58年11月15日レストラン嵐山にて

県人会の懇親会　前列右より葛目さん、信田さん、西口さん、福富さん、後列西口さんのご主人と塾生他。

平成８年４月塾新入生歓迎コンパ

食堂舎にて退職する西口寮監を囲んで記念写真

平成９年塾慰霊祭集合写真

前列椅子に座る滝本大先輩の右横は、昭和31年度卒塾の医師となった高橋宏さん

京都OB会で一番の年配で今もお元気な名誉維持会員です

平成８年高知OB会懇親会に今本寮監初参加

滝本最高顧問・古谷会長・西村協会事務局長を囲んで

サンライズホテルにて

今本満喜枝寮監のこと

平成14年土佐塾生コンパ

今本寮監と杉本OB

平成８年から、前任の西口信子さんの後を受けて着任しました。それまでは、旅行会社の営業課長をされていたそうで、殊勝にも若気の至りの土佐塾生の面倒を見ようだなんて。京都職安を通じて応募され採用されました。山口県生まれでご本人は意識はないでしょうが、私達には土佐塾と松下村塾とは相通ずるところあり、今本さんはよく来てくれたと歓迎しました。OB会にもよく来てもらい、また塾生との交流の場に私達をよく呼んでくれました。西口さんの時代は、前半は寮監は別に居り、いわゆる炊事をする塾母から寮監兼務となりましたが、今本さんは当初から寮監でしたので、ご本人は大変でしたが、はりきってくれたようです。やさしい物腰の西口さんを知っている塾の上級生達は、今度の寮監さんは、西口さんとは大分違うなとかまえたのではないでしょうか。同じ屋根の下では分かり合ってくるのですがね。塾の維持管理と協会

への連絡・報告・ご近所付き合い・塾生のしつけに給食と健康管理とありますね。塾OBにも気を遣わせました。塾生が風邪をひいたりしたときは、西口さんの時もそうですが、塾生は頭が上がりません。皆そう言っています。ある塾生曰く入塾当初は寮監さんの勢いにたじろいだが、この寮監ありて、社会性、信頼、友情、夢の共同生活です。夏暑い、冬寒い、部屋狭い、寮費は格安、親はありがたいという、青春の僕は塾を出る気なしと。

その今本さんも、平成21年10月11日ご病気で亡くなられました。お葬式にはご近所で親しくお付き合いのあった河野桂子さんと今本さんの後の塾の管理をしてくれていた長期塾生の中村健史さんが、広島でのお葬式へ参列されました。今本さんのお葬式のことなど知らなかった世話になったOBの皆さんご冥福をお祈りいたしましょう。

尚、大工さんでした河野さんのご主人は塾の庭木や物置小屋の面倒をよく見てくださいました。

橋本知事土佐塾へ来る

平成８年11月17日に、ご夫妻で当日午後蹴上の都ホテルでの高知県人会近畿連合会総会後のご来塾を快く受けてくださいました。そのことを今本さんは京都高知県人会会報に書いてくれました。寮監就任数か月でしたから、その準備、掃除と大変だったようで、OBの福富一彦さん（昭和56年度卒塾）や当時の総務の坂本道則さんに大変お世話になったと書いています。知事は学生一人ひとりの意見をよく聞いてくれたと。塾生は大変感激していました。塾高知OB会長の古谷俊夫さんも同席して、土佐塾の存続についても話し合いができました。また、当日もそうでしたが、OBの福富さんは塾生とOBの交流機関誌“鯨風”の編集も手伝って良きパイプ役でしたが、平成10年に病気で若くして亡くなりました。誠に残念です。ご冥福をお祈りいたします。

平成８年高知県橋本知事夫妻来塾記念集合写真
今本新寮監初大仕事

土佐塾OB会設立から廃寮・お別れ会へ

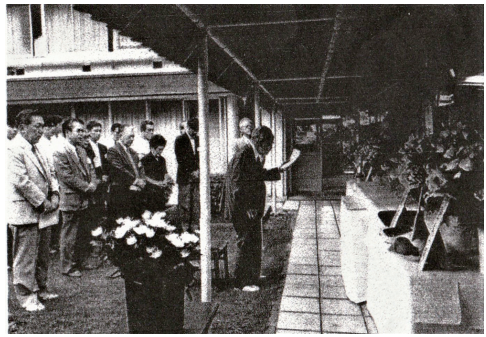
私達の土佐塾は、昭和８年郷土出身の諸先輩の浄財と、木造２階建て２棟の和田泰造病院長よりの寄贈に始まり、塾生の自主運営から財団法人に移管して昭和45年８月に土佐育英協会による鉄筋コンクリート２階と３階建て２棟（４帖弱位の個室の41室）新築となり、それも30年となると老朽化が進行して、時代への対応性（電化マンション等）、郷土の大学進学者、家族の意向も併せてそれぞれの負担を塾OBもどうするのか、どうできるのかの対応に迫られるようになりました。OB同士の意思疎通・県民へPRも更に必要です。1991年（平成３年）12月に発行の鯨風33号（OB会発足特別号）にその年７月発足した塾京都OB会会長葛目尚宏さん（昭和17年度卒塾）が直面する諸問題として提議してくれています。OB会は塾生とOBとの交流親睦会ではすまないのですね。それは高知サンライズホテル会長の古谷俊夫さん（昭和27年度卒塾）も同様で、当年６月に塾OB会を立ち上げて現在まで続いています。私は今でも年２回位帰郷して、その都度古谷さんを始め大脇保彦さん（昭和31年度卒塾）、野村洋一さん、（昭和41年度卒塾、高知で１番付き合いの良い後輩です）竹内一浩さん（昭和42年度卒塾）、長野道夫さん（昭和43年度卒塾）、田中宏昭さん（昭和54年度卒塾）、樋口毅彦さん（昭和58年度卒塾）等にお会いして交流しています。特に大脇さんは、高知大学の元教授でして、平成18年に育英協会評議員を私が受けました。そして平成24年に古谷さんから私が理事を受けた時に長野さんが協会評議員になり今もそうです。皆さん方と会う場所は主にサンライズホテルですが、高知の会合の場として、大橋通り電停近くでもあり、非常に有難いです。

一方京都のOB会は、葛目会長が平成11年に亡くなられた後、幹事長をしていた私が会長に就任させていただきましたが、組織としてのOB会活動は不充分で、育英協会評議員・理事として、塾OBの一人として土佐塾の最後まで見届けましたが、反省しています。高知のOBの皆さん方にお願いしますが、これからは京都・高知と言わずに全国を一つにして、高知に連絡先事務所を置きOBの意思疎通・交流していただきたく思います。土佐塾は今は無くなっていますが、塾OBであり想い出を共有して、きずなを深めていけたら良いのではないでしょうか。

それで高知市在住の昭和54年度卒塾の田中宏昭さんに土佐塾OBの連絡係をお願いしています。

今までも正月２日の高知サンライズホテルでのOBと塾生との新年懇親会のお世話をしてくれた方です。

さて、平成５年７月３日（土）午後塾の中庭において、土佐塾物故者の慰霊祭が滞りなく行われました。祭壇の設営は一級建築士の岡西重治（昭和59年度卒塾）幹事の設計施工管理の下、塾生が働き岡西夫人の生花奉仕により、立派にできました。昭和５年度第一期卒塾の滝本實春大先輩が、祭文を読まれました。90人程亡くなっていました。高知からもOBの方々が来られOB会として大きな行事でした。



平成５年塾慰霊祭、滝本大先輩祭文奏上

更にさて、育英協会年誌のあけぼ乃によりますと定員41名の京都土佐塾の在塾生は、OB会発足の平成３年より平成18年までの16年間で39、36、38、36、26、30、29、26、25、19、15、15、15、18、22、20人と減少しています。（岡西さん調査）入塾生が増えると塾も健全経営となるのですけれど､この傾向ではこの先が思いやられます。

平成12年に育英協会により塾OBも委員に入れた、土佐塾検討委員会が作られ外部業者に改修計画調査依頼をしたが、高額な改修見積費では、その浄財集めの難しさ、塾舎の将来性需要バランス等より結論は出せません。

一級建築士塾OBの岡西さんよりも全面建て替えの詳細な建策がありましたが、資金集めに立ち往生するようなものでした。OB・塾生がPR活動をして、県民を啓蒙しなくてはならないようです。それは高知新聞にも取り上げられ、塾生も「京都へ進学する皆さんへ、土佐塾で暮らしてみませんか」と毎年の鯨風に２ページにわたり掲載し、高校の後輩に配布したりしてくれました。

そんな中に平成18年10月の育英協会理事会で、４年後の平成22年３月末日をもって廃寮が決定いたしました。厳しい現実でした。

平成17年県人会杉本会長、岡崎副会長（岡崎電工社長）、西村理事（西村信天堂社長）と土佐塾生
「レストラン平わ」にて

土佐塾閉寮後の顛末

平成22年３月末で土佐塾を閉寮し、その４月３日に協会とOB会で塾でお別れ会をしました。会場は、南北棟間の四角い食堂舎で参加者は、二代目塾頭宮本正清氏夫人、最初の塾舎の寄贈者のお孫さん、寮監倉橋茂常さんのご子息、また西村信助常務理事のご子息で、京都高知県人会吉本会長以下有志と育英協会西森副理事長。岡本事務局長、西岡主事とOB会古谷高知OB会長以下30人位と全国から参集してくださいました。東京、埼玉、神戸、長野、兵庫、岐阜、大阪、和歌山、川崎、福井、高知、京都です。大勢お集まりいただき盛会で、世話人の一人として感謝申し上げます。

４月３日のお別れ会で、思い出に残る塾にある遺品は、引き取っていただければありがたいです。先ず、北寮と食堂間の通路の壁に掛けてあった300人余りの名札はできるだけ引き取ってもらいました。

図書室の書籍は、各方面に利活用を打診し、残ったものは廃棄処分しました。昭和８年に木造２棟を寄贈された和田泰造病院長の肖像画はお孫さんが引き取られました。

平成22年４月３日
塾舎にずらり塾生名札

浜口雄幸の筆になる「荒怠相誡」の額は、高知新聞の橋井昭六さんのお世話で今も雄幸さんの母校（昔は高知一中）追手前高校の校長室に掲示されています。それだけでもう全て廃棄されたと思います。

雄幸総理の揮毫は、右から左へと書かれ、「こうたいあいいましむ」と読むのでしょう。「怠けおこたることは、互いに戒めあえ」でしょう。塾生OBの一人として首をすくめます。

平成22年　塾舎に浜口雄幸総理の書

その後をどうするか。自分だけではどうにもなりませんので、私のキャリアを活かしてそれぞれ専門職の友人知人のアドバイスと実務執行をしていただこうとしました。以降臨機に協会の西森久米太郎副理事長に相談し、お伺いして私が本件担当として動くこととなりました。先ず、京都市中京区の産婦人科足立病院の院長畑山博氏に相談しました。氏は土佐清水市のご出身で京都高知県人会理事に就任していただいていますが、京都大学医学部大学院を修了された医学博士です。その後乞われて百有余年の歴史のある足立病院６代目院長に平成８年に30歳代の若さで就任していました。氏の円満な育英事業にも理解と造詣の深さから、有為な人材を育成したいとの、これからの土佐塾について相談しました。京都市の意向、動きを聞こう。塾舎をどうするのか。それなりに改造して使えるのか、その健康診断等は、病院新館を設計施工させたNEO建築事務所の原田社長を使いその費用は当方で持つ（畑山氏）と。すぐに原田社長を呼び要請されました。京都市から留学生宿舎増設のアドバイスを受け、平成22年10月30日に高知サンライズホテルでの京大OB会に来られた京大副学長以下と育英協会結城理事長以下顔合わせをして、本件について進行していくことを確認しました。

以降NEOより現行建築基準の兼ね合いもあり建て替えではなく、塾舎個室スペースはそのままで、15年間保証の耐震改修案を京大に提示し、現地塾視察検討を得て（東南アジアの）留学生に適応して勉強もできて、女子も日本学生もと門戸を広げる案で合意しました。それで私の親しい弁護士、税理士とも協議して、高知の古谷OB会長と京都の岡西OB幹事長に話をして、今後の運営主体、維持管理、固定資産税対応等をクリアして改修の借入金は京大が保証負担して相当額の賃借料を協会に支払うこととなりました。これで平成23年３月下旬の理事会に承認を得ようと上述の議案書を作成していた矢先の３月11日に東北大震災が起こりました。

それで日本全国の留学生が一遍に帰国し、ご破算となり茫然自失です。

土佐塾用地の売却

京大が、留学生用全面使用する事案も東北大震災で、ご破算となり、協会の公益財団法人化をひかえて、いつまでも遊休土地にもできず、塾用地を売却することとなりました。京都市役所OBの不動産取引の専門家に売却方お願いしていましたが、いざとなると中々折り合えずに、それで私は控えていましたが、私の親元会社にお願いし担当の京阪電鉄不動産㈱と折衝しました。

平成22年鉄筋コンクリート塾舎
東南から撮る

土佐塾は叡山電鉄の沿線で南東北面道路の矩形300坪のきれいな土地であることを評価して、塾解体を先方負担で、育英協会が依頼していた不動産鑑定士の鑑定相当額で合意できました。平成24年９月に西森副理事長のお伴をして行き、年末に売却完了しました。

南３面、東２面、北２面の７軒の40坪強の住宅地となり２階建ての民度の高い住居で順調に完売されました。三方の道路の簡易舗装もきれいにやり直してくれました。

その東南角地だけは、洋食「キッチンごりら」が開店し、美味しいと評判です。そこのご主人にお願いして、入り口横に土佐塾跡地の記念碑を設置させていただきました。その費用は協会とOB会と折半として、OB会分は古谷さんにご配慮いただきました。皆さん記念碑を見がてら美味しいトンカツを食べに行ってください。

平成26年土佐塾跡地碑
洋食「キッチンごりら」入り口に建立

平成22年４月３日土佐塾お別れ会の二次会盛況

おわりに　これからのこと

2013年（平成25年）３月に、土佐塾OBの皆様方に高知・京都OB会長連名のおしまいの挨拶文を送りました。それは、協会結城理事長名の同様の挨拶文に同封させていただきました。

もう京都土佐塾はその土地も無くなり、国債として基本財産となっています。それをこれから私は有為の人材育成のため、それも一極集中の東京に使うのではなく、京都関西の更にふるさと土佐の高知の育英事業に活用していただきたく思います。それ以上私が言うことではなく、若い皆さん方でお考えいただき、相談して育英協会にお願いしてください。

幸い集いの場として、いつもお世話になっている高知サンライズホテルの古谷会長は、まだまだお元気ですので、高知・京都・全国OBを一つにしての名誉会長をお願いいたしましょう。

本文は、土佐育英協会の年誌“あけぼ乃”の文章ですので、ふるさとを始め育英事業の篤志家の皆様、東京寮のOB、寮生皆さん、それに京都土佐塾OBとお身内の方々、京都の土佐塾はこうであったと、その一片を私なりにお伝えさせていただきました。

ふるさと高知の有為の人材を育成する事業を推進される皆様よろしくお願いいたします。東京寮のOBの皆さん東京寮の灯が消えないように頑張ってください。

令和２年（2020年）10月

（参考）
以下の個人情報については、筆者（杉本氏）が不特定多数の人に開示することを説明したうえで、本人から同意を得ているとして、掲載を希望したものです。

1　筆　者　　杉本　泰男
滋賀県草津市
携帯　090-8793-1095

2　土佐塾ＯＢの連絡係
田中　宏昭（昭和54年度卒塾）
高知市　　TEL 088-840-4066